

第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和4年9月22日(木) 13:30～15:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽 氏 (和歌山商工会議所専務理事)

村田 頼信 氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)

田中 資則 氏 (元紀伊コスモス支援学校校長)

和田 通尚 氏 (海南市立亀川中学校長)

前田 隆一 氏 (本校全日制育友会会長)

高垣 晴夫 氏 (本校同窓会副会長)

松本 泰幸 (本校校長)

(学校出席者)

宮本 裕司 (全日制教頭) 阪中 潤 (全日制教頭) 吉村 太一郎 (定時制教頭) 岡本 邦敬 (事務長)

小島 穰 (地域連携担当) 嶋田 光宏 (全日制総務部長) 吉田 庄吾 (全日制教務部長)

金城 正明 (全日制生徒指導部長) 雑賀 慎哉 (学校評価委員会委員長)

開会の前に、本校5限目の授業参観を行った。見学場所は本館5階から1階にかけての実習風景やHR授業などを参観した。

【1】 開会

【2】 会長挨拶

【3】 校長挨拶

【4】 議事 (議長：田中会長)

(1) 学校の現状について

(2) 本校の教育活動について報告及び協議

(3) 今後の活動予定について

松本校長より上記(1)～(3)について次のとおり説明を行った。

今年度の新たな取り組みについて

1. 小学生ものづくり教室

小学生のものづくりに対する興味や関心を高めさせるきっかけ作りと、指導役を高校生に任せることで生徒の責任感やコミュニケーション能力などを向上させることにつながった。

2. 和工ハウスプロジェクト

7つの専門科が協力・協働し、全校生徒を巻き込んだ取組。現在デザイン案の募集中であり、文化祭にて優秀作品のプレゼンテーションを行う予定。

3. 特別支援教育の観点を取り入れた指導方法の工夫

生徒の中には発達障害など特別支援教育の対象となる生徒が一定数いることを踏まえ、教育相談部の教員数を1名増員して特別支援教育の視点を取り入れた指導方法の工夫に着手した。現在は、外部の専門家の指導助言を受け、生徒の個別支援のほか、研修会などをおして教育相談部をはじめ全職員の啓発と指導方法の改善などを行っている。

4. 本校の目指すべき方向性の検討

県教委が「新たな工業教育を創造するワーキンググループ」を設置し、学科改編や高校入試におけるくく

り募集など、新たな工業教育についての意見交換が始まったことを踏まえ、校内でもワーキンググループを立ち上げ、検討を始めた。本校では、進学者の増加を背景に、数学Ⅲの履修ができないかなどについて検討しているところである。

阪中教頭より、小学生ものづくり教室及び和工ハウスプロジェクトについて、パワーポイント資料を基に説明を行った。

授業参観、校長からの説明を受けて、各委員の方からいただいたご意見は以下のとおり。

- ・工業科の「くくり募集」はやめた方がよい。中学生が学科を決めて入学できるようにするには、小学生対象のイベントの開催をするなど高校の取組を中学校に対してわかりやすく発信して欲しい。(委員)
- ・入試で第1希望、第2希望を考えて中学生は出願しているのか。(委員)
- ・「くくり募集」は、入学後に適性をみて学科を選ぶことができるというメリットがあるので、7科全体ではなく、いくつかのグループに分けて実施することもできるのではないかな。(委員)
- ・授業中に、服装・作業服・マスクをちゃんと着ていない生徒がいた。(委員)
- ・作業服を忘れた生徒などには、貸し出しをしてはどうか。(委員)
- ・授業の様子だけでなく、持ち物やリュックサックの状況、プリント類の机の中への詰め込みなど特別な支援が必要な生徒によくある行動という観点で教室を見たところ、気になる生徒もいた。(委員)
- ・学校から「情報」をどのようにして出していくか、子供たちはその「情報」をどのように受け取り(インプット)、どのように整理して出すか(アウトプット)ということを考えながら授業参観を行った。(委員)
- ・「くくり募集」について、中学校側としては、科を選んで入学するよりも「くくり募集」の方がありがたいと思う。中学生が高校入試までに目的を持って高校や学科を選ぶのは難しい。(委員)
- ・少人数制の授業について、教員にとっては授業時間数が増え負担が大きいと思うが、子供たちにきめ細やかで丁寧な指導をしていただけるのでありがたい。(委員)
- ・以前の学校運営協議会で委員より「作業服を着るとスイッチが入る。」という話があったが、生徒に実習以外でも服装などを整えることをきちんと教えていくべきなのではないか。環境を整えると学校全体の雰囲気が変わるのではないかな。(学ぶためのスイッチをいれる。)(委員)
- ・10/8,9に「商工まつり」を行うが、そのようなイベントで「子ども向けの体験教室」を高校生と一緒にするのはどうか。今年は無理であれば、来年は是非実施に向けて検討したい。(委員)
- ・今後の工業高校については、大学などへの進学希望者はじっくりと学ぶことができ、就職希望者は即戦力になる生徒になるよう育てて欲しい。(委員)
- ・今後育友会としては、和工ハウスプロジェクトについて、学校と協力して取り組んでいきたい。(前田氏)

(4) その他

委員より、以下の提案があった。

- ・テストの自動採点を取り入れてはどうか。
- ・Zoomを使った放送大学の授業の受講を取り入れてはどうか。
- ・生徒の学ぶためのスイッチは何度も入れないといけない。(ゴミ拾いなどのすぐに取り組めることから)
- ・学校の表示に「安全第一」など以外にも、実習で使用する機械などに名前や使用説明を書いて貼るなど、見て覚えるという環境を作ったらどうか。また、それは中学生体験学習の際なども役に立つのではないかな。
- ・図書館の地域への開放を行ってはどうか。
- ・3Dプリンターなど、常に最新の機械を導入してあげてほしい。
- ・高校生を「和歌山ものづくり文化祭」へ参加させてはどうか。

【5】次回学校運営協議会の開催等について

- ・協議題がある場合は、9月中旬に教頭までお願いしたい。
- ・次回開催は11月15日（火）15:00～17:00で承認された。
- ・第4回学校運営協議会は1月31日（火）予定とした。

【6】閉会